



「おもてなし」の日本

頭取 大道良夫

「おもてなし」は日本古来の歓待の心です。このほど、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。「和食」に込められた「おもてなし」の心が世界に認められたとも言え、誇りを持つて広く世界に発信できる日本の文化です。

その「おもてなし」の心が海外、特にアジアの国々へ広がっています。富裕層向けの高額商品が市中に溢れ、競争が激化する中国で、かつては聞くことの無かった「歓迎光臨」(いらっしやいませ)などの日本式挨拶に触れるようになりました。また丁寧な商品説明や、クリスマスや記念日の贈り物のリボン包装が、そのような習慣の無かったお客さまに喜ばれています。「おもてなし」で他店との違いを出そうとする日系企業のサービスが、確実に広がっています。

さて昨年12月、当行創立80周年と期を合わせ、上海駐在員事務所開設10周年、香港支店開設20周年記念の「お取引先さまの集い」を上海と香港で開催しました。ご来場のお取引先さまも、従来からのものづくりに加え、食材販売や飲食、小売り、サービス業等の進出が増加しており、既に現地でのビジネスに「おもてなし」を取り入れておられます。この「おもてなし」は、今後経済成長が期待されるベトナム、カンボジアなどの新興国でも歓迎され、新たなビジネスチャンスに結びつくはず、とお考えでした。

会場でもう一つ新しい言葉をお聞きしました。

「外へ」取引です。日本企業のタイ工場の製品、半製品を東南アジアやヨーロッパに輸出するなど、海外から海外で取引を完結させておられ、日本からは見えない取引が大きなウエートを占めつつあります。

日本がアジアに生産拠点を求めて30年あまり。市場をもアジアに求める日本の企業は増え続けています。6億人の市場であるASEAN共同体の誕生を2015年に控え、「外へ」取引は加速度的に増えることでしょう。

当行は2006年、お取引先が現地での調達販売を拡大される機会として、上海で他の地方銀行との共催でビジネスマッチング商談会を始めました。8回目の昨年は、出展企業603社、来場企業数5100社8500名、商談件数18000件と、中国でも最大級の商談会に成長しました。今年6月にはバンコクでも同様の商談会初開催を予定しているほか、昨年業務提携した香港貿易発展局の協力を得て、お取引先の海外でのビジネスチャンス創出に更に注力する所存です。アジアビジネスならしげがぎんへ、気軽に声をかけていただくようお願いしております。

競争が激しいアジア地域へ進出する日本企業が、「外へ」取引で商圏拡大を図る一方で、静かに広がりを見せる日本古来の「おもてなし」の心がビジネスのあり方そのものを変えつつあるなど、新たな可能性を感じる今回の上海香港訪問でした。

B U S I N E S S T A L K